

二浦格樓 （あがら） 陸軍軍人。弘化二年十一月十五日長門國萩生れ、大正十五年一月二十八日歿（八四、一九三六）。舊姓五十部、諱一貫、通稱五郎、格樓。變名二浦一郎、號觀樹、觀樹居士。文久元年二浦道庵の家督を繼承く。二年奇兵隊に入り、戊辰戦等に参加する。明治四年陸軍少將、九年廣島鎮臺司令官となり、其の亂、西南役に従軍。十一年中將、十五年陸軍士官學校校長、二十一年豫備役、宮中顧問官兼學務院院長。二十八年駐韓公使時、明妃被害事件（乙未政變）を起して逮捕せられ、之を無罪。爾後政界の黒幕的存在。貴族院議員、樞密院顧問官を歴任。子爵。

著書 『維新戰役實存談』（合著・維新戰役者五十年祭事務所編、大正六年十月十日） 『維新戰役者五十年祭事務所』、『熱海の五千名家』（合著・齋藤和堂編著、大正九年十一月二十日） 『靜岡・富永寛明刊、精和堂發賣』、『觀樹將軍從軍談』（熊田喜城記、大正十二年十一月十日） 『實業之日本社』、『觀樹將軍回顧録』（政教社編、大正十四年二月十日） 『政教社』、『觀樹片影』（昭和七年一月二十八日） 神奈川・中島眞雄編刊（等）。